

# 学ぶ力の向上に優れた成果が見られた 学校の実践事例



平成29年1月30日

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課



## ◇はじめに

本県の学ぶ力の向上に向けて、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学力状況と学習状況の相関や経年変化から、学ぶ力向上に向けての今後の取組の重点を次の4点としました。

- I アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善
- II 授業と家庭学習をつなぐ単元計画
- III 子どもたちの学びをつなぐ小中連携
- IV 授業研究会の取組や校外での教職員の協力体制づくり

本冊子は、県内の小中学校で取り組まれている実践を県内全域に広めようとするものであり、滋賀の子どもたちの学ぶ力の向上に向けた各学校の取組を推進するものです。

## ◇学ぶ力の向上に優れた成果が見られた学校の実践事例

学ぶ力の向上に向けて、次の①から⑤の視点において、成果をあげている学校を紹介します。各学校の「学ぶ力向上策」の改善検討に活用してください。

I	①主体的・対話的で深い学びを実現する (1)彦根市立平田小学校、(2)彦根市立金城小学校、(3)野洲市立祇王小学校	1ページ
II	②授業と家庭学習をつなぐ 湖南市立菩提寺北小学校	7ページ
III	③小中連携の取組を充実させる 高島市立高島中学校区	9ページ
IV	④校内研究会を充実させて授業を磨く (1)東近江市立八日市南小学校、(2)日野町立日野小学校	11ページ
	⑤地域と協働して組織的に取り組む 守山市立明富中学校	15ページ

※18ページ以降は参考資料。

# 1 主体的・対話的で深い学びを実現する(1)

## ☑ 子どもも教師も主体的な学びをめざす小学校

新学習指導要領で示される「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには子どもも教師も「主体的」に学ぶための工夫が求められます。

ココを学びたい！

### ポイント1 子どもの学び方を育成する取組

#### 子どもたちの主体的な学びのサイクルの実現！

- ・子ども自身による課題設定
- ・学習過程を子どもとともに計画する単元構想
- ・学びのサイクルを明確に位置づけた授業の構想

課題を見付ける

見直しをもつ

自分で考える

共に学び合う

学習をまとめる

学習を振り返る

新たな課題

### ポイント2 効果的な授業研究会の開催

#### 短時間で、的を絞った研究会！

- ・教員全体が、共通の視点に基づき主体的に授業を考える授業研究会を実現
- ・ふせんやKJ法などを使った主体的な研修方法

	彦根市立平田小学校
学級数	11学級
児童数	243名



### ○学校の特色

#### 「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

2年目となる「新たな学びに関する教員の資質能力向上事業」、今年度からの「主体的・協働的な学び推進事業」をもとに、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、国語科の授業を通して研究に取り組んでいます。

#### 「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

- ・スピーチ活動、グループ学習など豊かな言葉の環境づくりの充実
- ・読書活動の推進、読書指導の充実、読書意欲の喚起(授業・放課後・朝の学習)

※平成28年度 主体的・協働的な学び推進事業(県教育委員会指定)

※平成27・28年度 新たな学びに関する教員の資質能力向上事業  
(独立行政法人教員研修センター委嘱事業指定)

※平成27年度 小学校派遣研究 小学校算数(県総合教育センター)

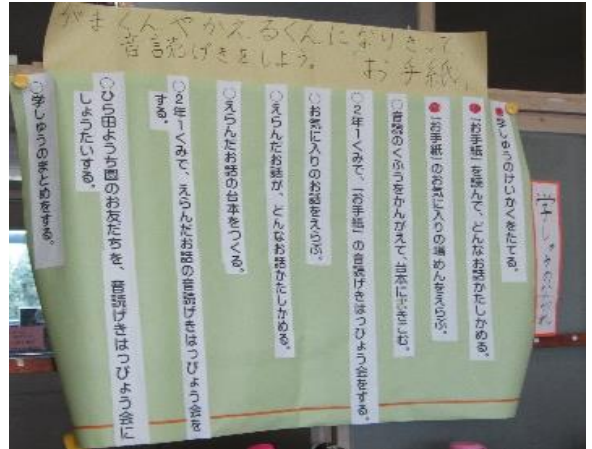
## ポイント1

# 子どもの学び方を育成する取組

### ○学習過程を子どもとともに計画する単元構想

【小2 国語「お手紙」】

- ・単元末でのめざす子どもの姿を具体的にイメージします。
- ・付けたい力を明確にして、どのような言語活動を仕組むのかを考えます。
- ・単元のはじめに、学習のゴールと1時間ごとの計画を子どもたちに提示します。(右写真)
- ・子どもたちが疑問に思ったことをもとに課題を設定し、学習を計画します。

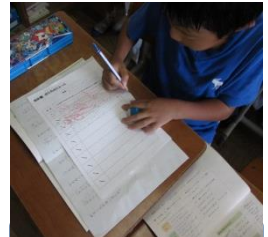


### ○学びのサイクルを明確に位置づけた授業の構想

- ・課題の解決に向けて、自分で考える場面や、ペア、グループ、学級全体とともに考える場面をつくり、最後に学んだことを振り返ります。



「ジャンプするように読んでみよう。」セリフの読み方をグループで話し合う子どもたち



授業の最後には、振り返りを行います。

## ポイント2

# 効果的な授業研究会の開催

### ○教師が主体的に学ぶ校内研究会

- ・研究授業の前に、各学年ごとの事前研究会を行っています。
- ・夏季休業中には、教員で2学期に実施する授業についての指導案検討を行います。
- ・授業の後、KJ法を用いた小グループによるワークショップ型の研修を行っています。



1時間の中での学びの深まりをとらえるように参観します。



具体的な子どもの姿をふせんに記録し、内容を分類することで研修を深めます。



# 1 主体的・対話的で深い学びを実現する(2)

## ☑ アクティブ・ラーニングの視点を追究する小学校

新学習指導要領で示される「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、「深い学び」とは何か、追究し続けることが大切です。

ココを学びたい！

ポイント1 主体的・対話的で深い学びの具体に取り組む

### アクティブラーニングの3つの視点を具体的な姿で示す

- ・身近なものごとを題材にした課題設定
- ・練り合いを大切にした授業づくり
- ・深い学びにつながる学びの自覚(メタ認知)→「振り返りの活用」

ポイント2 活発な意見が出る授業研究会

### 教師も思考ツールを使って研究会！

- ・思考ツール(マトリックス表やマンダラシート)などを活用した協議の実施

	彦根市立金城小学校
学級数	25学級
児童数	633名



## ○学校の特徴

### 「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

2年目となる「新たな学びに関する教員の資質能力向上事業」、今年度からの「主体的・協働的な学び推進事業」をもとに、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、算数科の授業を通じた研究に取り組んでいます。

### 「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

教員の授業を支える力を育む取組として、「学習のきまり10」の共通実践、授業と結びついた家庭学習の実施などの学習習慣・生活習慣の確立、スピーチ活動などの言語環境づくり、認め支え合える学習集団づくりを進めています。

- ※平成28年度 主体的・協働的な学び推進事業(県教育委員会指定)
- ※平成27・28年度 新たな学びに関する教員の資質能力向上事業  
(独立行政法人教員研修センター委嘱事業指定)
- ※平成27年度 小学校派遣研究 小学校算数科(県総合教育センター)

## ポイント1

# 主体的・対話的で深い学びの具体に取り組む

### ○めあての提示から、めあての共有へ

【小2 算数「形を調べよう」】

- ・学習のめあてを子どもとともに考えます。
- ・子どもの身近な生活と結びつけた題材を取り入れます。

### ○考えを練り合う全体交流学習



算数の授業では、写真に写った身近なものの形から、図形のきまりを考えました。

### ○学びの自覚と活用をめざす振り返り

- ・教室には学習の足跡を見える形で残していきます。
- ・振り返りは、めあてに即して、自己の変容を書くとともに、友だちの意見や考えを書いています。
- ・子どもたちが振り返りに書いたことをもとに次時の課題を設定します。

子どもたちの学習の足跡(作品やレポート)を見える形で残していくことによって、子どもたち自身が、自分の成長を感じることができる工夫をしています。

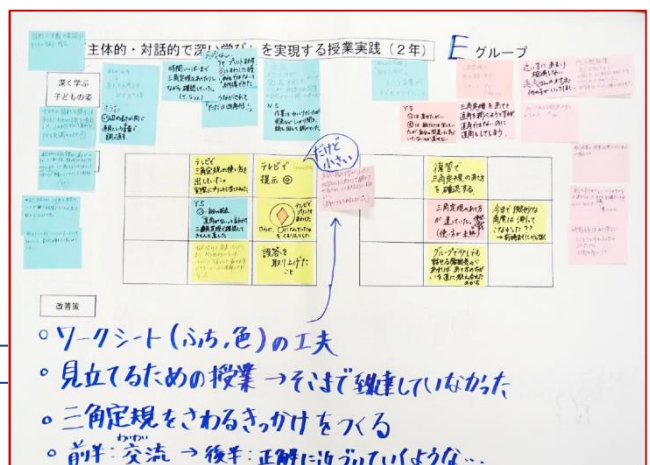


## ポイント2

# 活発な意見が出る授業研究会

- ・授業研究会では、思考ツール「マンダラシート」を用いたり、ジグソー法も使ったりしながら、小グループによるワークショップ型の協議を行っています。
- ・授業研究会の後には、教員が振り返りを書いて、まとめたものを印刷室に掲示し、共有化を図っています。

マンダラシート



- ワークシート(ふた色)の工夫
- 見立てるための授業→最後まで継続していかれた
- 三角定規をさわるきっかけを作る
- 前半:交流→後半:正解に近づいていこう...

# 1 主体的・対話的で深い学びを実現する(3)

## ✓ 子どもたちの「なぜ」を追究する小学校

主体的な学びを形づくるには、「なぜ」と問うことを大切にしなければなりません。生活科と理科を窓口にして、「なぜ」を解決する楽しさを実感する授業づくりを研究しています。

ココを学びたい！

ポイント1 授業の導入場面の工夫に徹底して取り組む

「やってみたい」「調べたい」という意欲を高める導入の工夫

- ・自然事象との出会い方や学習意欲を高める課題設定の工夫
- ・問題解決の過程(プロセス)を大切にする

問題解決型の学習プロセス⇒

ポイント2 学び方や学習規律の共通実践

全校統一でノートや学習ルール of 指導に取り組む

- ・ノートづくりを通して問題解決型の学習を指導する
- ・学習規律を学習の基盤として、子どもたちに身に付けさせる

問題

予想・仮説

実験・観察

結果の整理

考察  
振り返り

	野洲市立祇王小学校
学級数	25学級
児童数	580名



### ○学校の特徴

「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

平成25～27年度の県指定学力向上アプローチ事業の成果を生かし、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、理科・生活科の授業を通して研究に取り組んでいます。

「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

- ・各学年、重点となる単元を設定し、「なぜ」を問い続ける場面設定を重視した授業研究会
- ・これまでの研究の成果をいかし、理科、生活科の授業にも取り入れた「思考の過程が分かるノートづくり」

※平成28年度 主体的・協働的な学び推進事業(県教育委員会指定)

小学校派遣研究 小学校理科(県総合教育センター)

※平成25・26・27年度 学力向上アプローチ事業(県教育委員会指定)



## ポイント1

# 授業の導入場面の工夫に徹底して取り組む

### ○自然事象との出会い方や学習意欲を高める課題設定の工夫

【小4 理科「物のあたたまり方」】

- ・子どもが自然と疑問をもったり、気付きが生まれたりする、「やってみたい」「調べたい」という意欲を高める導入を工夫します。
- ・これまでの学習をふり返り、本時の学習課題につなげていきます。

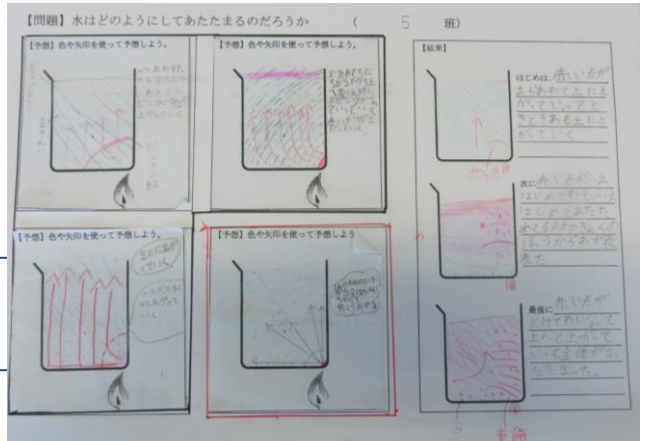
予想したことを出し合い、共通点や相違点を見つけ出し、自分の考えを深めていきます。



### ○問題解決の過程(プロセス)を大切にす

- ・問題の把握⇒予想・仮説をたてる⇒実験・観察⇒結果の整理⇒考察・振り返りの学習過程のなかで、「問題の把握」「予想・仮説をたてる場面」の時間をしっかりと確保します。

実験後は、予想と関連付けながら、実験の結果をまとめ、考察します。



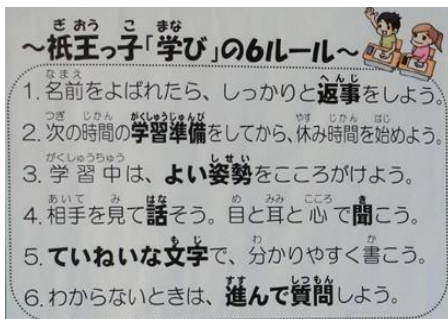
## ポイント2

# 学び方や学習規律の共通実践

### ○ノートづくりを通して問題解決型の学習を指導する

- ・「問題」「予想」「結果」「考察」「振り返り」へとつながるように、どの学年もノートの構成を統一して指導しています。

### ○学習の基盤として、学習規律を子どもたちに身に付けさせる



## 2 授業と家庭学習をつなぐ

### ✓ 家庭学習での予習を授業で生かしています

学校と家庭が連携して、家庭学習の習慣化を図ることが大切です。また、予習を授業につなぐことで、自分の考えをしっかりとめ、学校での学びを豊かにしています。

ココを学びたい！

児童向けに

ポイント1 単元計画や子どもの学習計画表に予習を明記する

#### 授業とのつながりを意識し、目的意識をもった主体的な学び

- ・単元計画に予習を明記し次時とのつながりを意識する
- ・学習計画表に予習を明記し、目的意識をもって家庭学習に取り組ませる

保護者向けに

ポイント2 保護者に家庭学習のねらいを伝える

#### 家庭学習の手引きを活用

- ・学級懇談会で基本的な家庭学習プランを提示する
- ・具体的な予習の例を提示し、効果的な家庭学習を進める

#### 湖南省立菩提寺北小学校

学級数	14学級
児童数	290名



#### ○学校の特徴

##### 「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

- ・めざす子どもの姿を達成するための単元構想の工夫
- ・付けたい力に最適な言語活動の設定
- ・一人ひとりの学びが深まる話合い活動
- ・言語感覚を豊かにする言語環境作り

##### 「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

- ・付けたい力が明確化されたためあてと、まとめ・振り返り
- ・付けたい力を身に付けるラーニングスキルや話合い活動を進める思考語彙カードの活用
- ・授業研究会の工夫と、「授業改善部・図書館教育部・言語環境部」の連携

※平成28年度  
※平成26・27年度

主体的・協働的な学び推進事業(県教育委員会指定)  
言語活動ステップアップ事業(県教育委員会指定)

ポイント1

単元計画や子どもの学習計画表に予習を明記する

○授業とつながる家庭学習(予習)の充実

【小5 国語「大造じいさんとガン」】

単元計画や子どもの学習計画表に、予習を明記することで、常に授業とのつながりを意識し、目的意識をもった主体的な学びをつくります。

5. 単元計画 (全8時間)

単元計画に予習を明記

次	時間	主な学習活動
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校司書によるブックトークを聞くことで、椋鳩十作品に対する関心を高める。</li> <li>○担任と学校司書による座談会を聞くことで、学習の出口を理解する。</li> <li>○「大造じいさんとガン」を読み、初発の感想（「椋鳩十ならではの書き方」「これまでの他作品とは異なること」「座談会を聞いて感じたこと」）を書く。</li> </ul> <p>予習① 初発の感想を400字以内で書く。</p>

3	<p>一人学び→グループ学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に整理した作品の魅力の観点に沿って、椋鳩十と他の作者の作品（「ごんぎつね」）を比較する。</li> <li>○グループで話し合い、共通点と相違点をまとめる。</li> </ul> <p>予習② 3作品を読み、作品の魅力を感じる所に線を引く。</p>	
二	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人学び</li> <li>○座談会で語り合う椋鳩十作品を一つ選択する（「母グマ子グマ」「月の輪グマ」「片耳の大シカ」）。</li> <li>○前時にまとめた作品の魅力の観点に沿って、「わたしはこう読む！作品の魅力シート」に整理する。</li> </ul> <p>予習③ 選択した作品と「大造じいさんとガン」の共通点と相違点をワークシートにまとめる。</p>
5	<p>グループ学び→全体学び</p>	

ポイント2

保護者に家庭学習のねらいを伝える

- ・学級懇談会で基本的な家庭学習プランを提示しています。
- ・具体的な予習学習の例を提示し、効果的な家庭学習を進めています。

保護者へは、学級懇談会など定期的に家庭学習プランや具体的な予習学習の例を提示しています。

家庭学習の手引き(高学年の例) →

家庭では

- 学習プリント類はきちんと整頓を。
- 今日の宿題は何かを確かめる習慣を。
- 机の上、学習用具の整理整頓を。

※時々、チェック欄に鉛筆でチェックをしながら、できているかを確認しましょう。  
□子ども用 ◇保護者用

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">宿題</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□分からないところは、教科書やノートなどを見ながらあきらめずがんばりましょう。</li> <li>□宿題が早く終わった時には、苦手な勉強の復習や明日の学習を確かめるような予習をしましょう。</li> <li>◇子どもの宿題の内容や学習の結果を見て、お子さんの学習の様子を時々確かめてみましょう。</li> <li>◇お子さんが「わからないから、教えて」と言った時には、できる限り応えてあげましょう。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">国語</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□登場人物同士の関わり合いや気持ちの変化、周りの様子などに目を向けながら作品を味わいましょう。</li> <li>□音読で教材文のあらすじをしっかりとさかみましよう。</li> <li>□スピーチや発表をする時に、話し方の工夫(声の大小・抑揚・速さ・間の取り方など)を意識しながら練習しましょう。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">算数</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□次の時間の学習問題について、式や言葉、図などを使いながら自分の考えとその理由を書き、分からない所をはっきりとさせましよう。</li> <li>□間違えた原因を早めに確認する習慣をつけましよう。</li> <li>□三角定規や分度器、コンパスなどを正確に操作して、図形を繰り返し練習ましよう。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">社会</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□教科書や資料集を見て、分かったことや疑問に思ったことを書きましよう。</li> <li>□グラフや表などを見て、分かったことや気付いたことを書きましよう。</li> <li>□歴史上の人物や日本の産業にふれた本に親しんでおきましよう。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">その他</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□新聞記事やテレビニュースなどを家族で話題にして、社会に目を向けましよう。</li> <li>□家族の一員としての役割を持ち、それをしっかり果たましよう。</li> <li>□予習・復習学習から次の時間のめあてを自分なりに立てましよう。</li> </ul>

予習学習は、学校での授業と大きく繋がっています。学習課題に対する自分の考えをしっかりともつことで、授業で友だちと積極的に交流したり、考えを深めたりする姿が見られます。また、分からない所を明確にできることで、授業に臨む姿勢が変わっています。予習を通して、学力の向上を図りましよう！



## 3

## 小中連携の取組を充実させる

## ☑ 9年間の学習指導につながりをもたせています

学校文化や指導法に違いがあることが小中接続の壁になっています。小中合同の授業研究会に積極的に取り組むことで、9年間の学習指導につながりをもたせ、円滑な接続をめざします。

ココを学びたい！

### ポイント1

#### 小中を通じた授業づくり

##### 小中で共通した学習過程の取組

・「ひとり学習→聴き合い→ひとり学習」という授業の流れを小中で共通実践

##### 教科担任制による教科の専門性を生かした指導を推進

- ・小学校で中学校教員による指導を実践
- ・小中の学びのつながりを大切にする

### ポイント2

#### 小中の学びをつなぐ小中合同授業研究会

##### 家庭学習の手引きを活用しています

・9年間を見通した家庭学習のプランを提示

	高島市立 高島小学校	高島市立 高島中学校
学級数	15学級	8学級
児童生徒数	331名	164名



## ○学校の特色

### 「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

教師主導ではなく、子ども一人ひとりが見通しをもち、自分の学びを深めていく授業づくりに取り組んでいます。

①ひとり学習(課題との対話) ⇒ ②聴き合い(仲間との対話) ⇒ ③ひとり学習(自分との対話・振り返り)といった授業の流れを小中共通の実践として取り組んでいます。

### 「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

9年間の学習指導に連続性、系統性を持たせるという視点から、小中学校の教員が合同で授業研究を行っています。小中それぞれの教員が9年間の学びを見据えた指導ができるように研究に取り組んでいます。

※平成27・28年度 小中連携推進事業(県教育委員会指定)



## ポイント1

# 小中を通じた授業づくり

### ☆小・中で共通した学習過程の取組

#### ○ひとり学習①

課題に対して見通しをもち、考えるきっかけとなるような、効果的なめあての提示から授業を展開します。

#### ○聴き合い

ひとり学習で気付いたことを言葉にすることを大切にしています。  
関心、共感、納得がある「聴き合い」の活動を設定します。



#### ○ひとり学習②

「聴き合い」の活動をいかし、まとめ・適用問題・振り返りなどで、学びを確認します。

### ☆教科担任制による教科の専門性を生かした指導を推進

中学校教員による指導(5・6年算数、6年音楽、4・5年体育)で実施しています。

## ポイント2

# 小・中の学びをつなぐ小中合同授業研究会

### ☆小中合同授業研究会 ～小・中の学びをつなぐ～

9年間の学習指導に系統性をもたせるために、小学校・中学校の教員が合同で研究を進め、授業改善に取り組んでいます。



異学年の児童生徒が交流する機会を多く設けています。



### ☆9年間を見通した家庭学習の手引き

生活習慣に関することから、学びの約束、家庭学習の進め方などをわかりやすくまとめています。

保護者のみなさんへ

高島学園の子どもの学力アップをサポートしましょう！

1. 子どもの学習に関心を持ちましょう。
2. 子どもががんばったことを褒め、ほめましょう。
3. 学習環境を整えてあげましょう。  
—食事・生活リズム 等—

学びの約束

☆1. 2年	☆3. 4年
1. がしゅうのじゅんびをし、じこくになったらせきについて待つ	1. 学習の準備をし、時こくになったら席について待つ
2. あいさつはおおきなこえでする	2. あいさつは大きな声で進んでする
3. じゅぎょうちゆう ○はなしてをみて、さいごまではなしをきく ○あいてにきこえるこえではなす ○すんではなす	3. 授業中の心がまえ ○話し手を見て、正しいせいで最後まで聞く ○相手に聞こえる声で話す ○進んで発表する
☆5. 6年	☆7. 8. 9年
1. 学習の準備をし、授業時刻になったら席に着いて待つ	1. 学習の準備をし、授業時刻になったら席について待つ
2. あいさつは心をこめて気持ちよくする	2. あいさつは心をこめて気持ちよくする
3. 授業中の心がまえ ○話し手を見て、正しい姿勢で最後まで聞く ○相手に聞こえる声で話す ○進んで発表する	3. 授業中の心がまえ ○進んで質問や発表をし、仲間と協力して学習する ○姿勢を直し、先生の説明や彼女の発表を集中して聞く

## 4

## 校内研究会を充実させて授業を磨く(1)

## ✓ 課題発見・解決型の校内研究に取り組む学校

協働的な校内研究会を進めることにより、教師一人ひとりが主体的に授業づくりの課題解決に取り組むようになり、結果として、授業が磨かれています。

ココを学びたい！

ポイント

課題発見・解決型の校内研究会

### 意見を出し合い実りある校内研究会に

- ・本時の授業で見てきた課題に対し、キーワードを洗い出す
- ・課題に向けた解決策を小グループや全体で協議する
- ・出し合った意見をホワイトボードに可視化する



#### 東近江市立八日市南小学校

学級数 22学級

児童数 551名



#### ○学校の特徴

##### 「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

「やってみようがあふれる授業づくり」～自力挑戦を充実させるための指導の工夫～  
を研究テーマに、子どもたちが「主体的に考える力」を育成するための共通実践に取り組んでいます。子どもたちに授業の見通しをもたせること、自力挑戦の時間を充実すること、考えを深める交流の時間を設定することなどを視点として授業改善に取り組んでいます。

##### 「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

校内研究会では、ワークショップ型の研究会を実施し、授業で見てきた課題について、解決方法を考え、明日からの共通実践を決め、学校全体での取組を進めています。

※平成28年度 主体的・協働的な学び推進事業(県教育委員会指定)

## ○課題発見・解決型の校内研究協議会の進め方

「学びを起こす授業改革」(村川雅弘・田村智子・東村山市立大岱小学校 編著/ぎょうせい)を参考に学校が作成

# 研究協議会の進め方

## 1. 授業者より

## 2. 課題が書かれた付箋を各テーブルで出し合う

○課題の書かれたピンクの付箋を出し合う。出された付箋をグルーピングし、見出しをつけ、ピンクの短冊にまとめる。

## 3. 出された課題をテーブルごとに発表する

○時間短縮のため、他のグループから出されていない意見を中心に発表する。2で作成した短冊を出しながら説明を行う。

## 4. 出された課題を全体で分類・整理する

○全体司会が、出された課題を分類整理し、改善策を考えるべき課題を抽出する。

## 5. 出された課題について、改善策を付箋(黄色)に記入する

○個人で、出された課題についての改善策を考え付箋に記入する。そのときには、自己の実践を基に、より具体的に方策をあげていくようにする。

## 6. 改善策が書かれた付箋を各グループで出し合う

○出された改善策をグルーピングし、見出しをつける。つけた見出しは、黄色の短冊に書き出す。

## 7. 出された改善策をテーブルごとに発表する

○時間短縮のため、他のグループから出されていない意見を中心に発表する。6で作成した短冊を出しながら説明を行う。

## 8. 出された改善策を全体で整理・分類する

○出された課題の短冊と改善策の短冊を結びつけながら授業改善案をまとめる。

## 9. 指導助言・講評

意見を出し合い実りある研究会に



### ○ワークショップ型の校内研究会を実施

- ・研究授業で見た課題に絞って、協議をしています
- ・出された課題を分類し、その課題の改善策を出し合います
- ・出された改善策をまとめ、共通実践をする内容を考えます
- ・全体交流では、OJT を兼ねて若手職員が発表します



研究授業で見られた良かった点や成果については、授業後すぐに共有





## 4 校内研究会を充実させて授業を磨く(2)

### ✓ 校内研究を共通実践につなぐ学校

校内研究会で共通理解したことを共通に実践し、授業改善の成果を全校で共有化していくことで、教師の手ごたえ感が高まります。結果として、授業が磨かれ、子どもの学ぶ力の向上につながります。

ココを学びたい！

ポイント1 「明日からの実践はコレ」 共通実践項目の設定

#### 成果と課題を共有し合える校内研究会

・研究会で出された成果と課題から、全校で共同実践していく内容を決める

ポイント2 アクティブ・ラーニングチェックシートの活用

#### 取組を自己評価し検証改善していく

・自校の取組を自己評価するための工夫としてシートやアンケートを活用する

	日野町立日野小学校
学級数	22学級
児童数	555名



#### ○学校の特徴

##### 「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

3年間の学力向上アプローチ事業の取組では、国語科を窓口「書く力」を高める授業改善に取り組んできました。その成果を生かし、今年度から算数科を窓口「主体的に学び、基礎・基本を身に付ける指導方法」の研究に取り組んでいます。

##### 「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

学力・学習状況調査や算数アンケートなどの分析より、課題のある領域を重点単元に指定し、校内研究会では「日野小・明日からの実践はコレ」を決め、共通実践を積み上げています。

※平成25・26・27年度 学力向上アプローチ事業(県教育委員会指定)

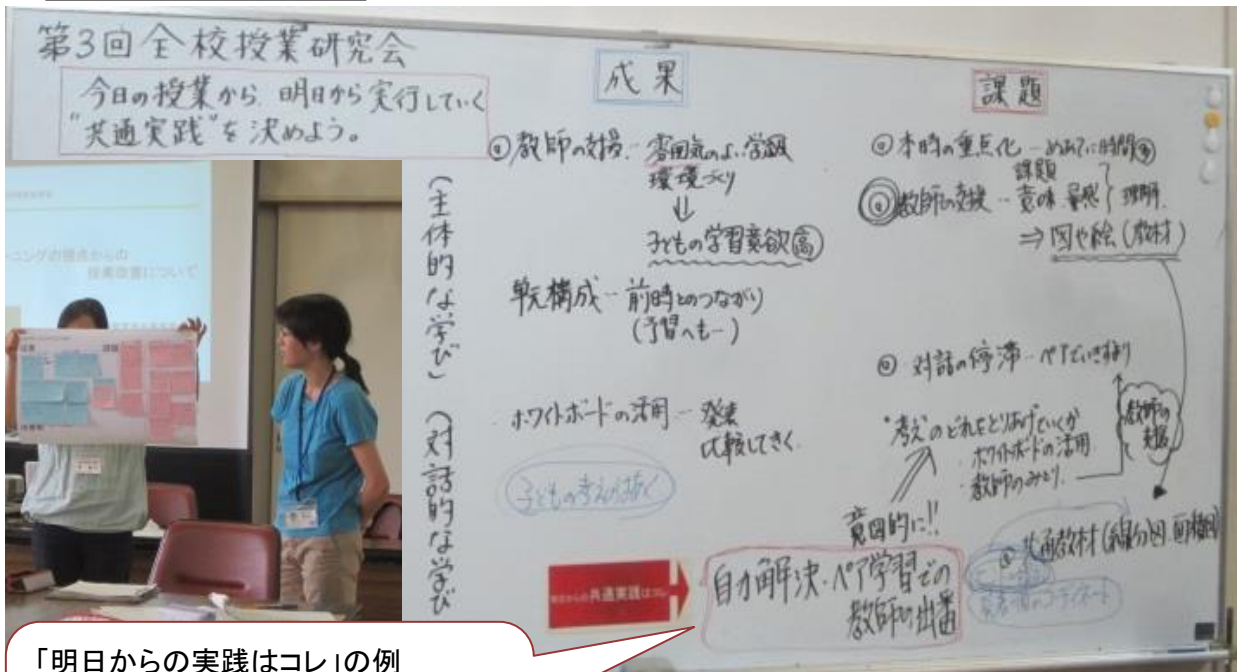
※平成28年度 主体的・協働的な学び推進事業(県教育委員会指定)



ポイント1

「明日からの実践はコレ」 共通実践項目の設定

○校内研究会の板書記録



「明日からの実践はコレ」の例  
「ねらいをしぼる」「話し合い活動の必然性」「自力解決・ペア学習における教師の出番」「子どもの困り感を生かす」など

ポイント2

アクティブ・ラーニングチェックシートの活用

○自己評価し検証改善していく

子どものアンケートや教師のアクティブ・ラーニングチェックシートなどで子どもの学びの姿や指導方法をチェックし、授業改善に生かしています。

1回目

Ver. 2.1

アクティブ・ラーニング チェックリスト

6月10日(金)までに前の封筒に入れてください。

評価者 \_\_\_\_\_

4: 当てはまる 3: どちらかと言えば、当てはまる 2: どちらかと言えば、当てはまらない 1: 当てはまらない

A 目標・課題設定

- ① 思考力・判断力・表現力の育成に重点をおいて授業設計をしている。 4-3-2-1
- ② 問題解決や創作表現のための学習課題を児童生徒に設定させている。 4-3-2-1
- ③ 学習指導に多様な汎用的能力の評価規準をもって実践している。 4-3-2-1

B 活用・探究問題の設定

- ④ 基礎的・基本的な知識・技能を活用する場面を設定している。 4-3-2-1
- ⑤ 児童生徒が主体的・協働的に取り組む学習問題を設定している。 4-3-2-1
- ⑥ 意外性がある問題や協力して解決できる問題の設定している。 4-3-2-1

C 教材作成

- ⑦ 教科書や資料集にはないオリジナル教材を作成している。 4-3-2-1
- ⑧ 新聞記事、統計資料、地図、写真、図表など多様な資料を用いている。 4-3-2-1
- ⑨ 社会生活や日常生活の場面を想定して、課題解決を行わせている。 4-3-2-1

D 活動構成

- ⑩ 自力解決と小集団での協働解決、一斉検証を組み合わせている。 4-3-2-1
- ⑪ 思考や対話、発表や表現、作品制作など多様な活動を設定している。 4-3-2-1
- ⑫ 問題解決や創作表現の学習プロセスを、児童生徒に設定させている。 4-3-2-1

E グループワークの活性化

- ⑬ グループで資料を読み取り、意見を出し合いまとめて発表させている。 4-3-2-1
- ⑭ グループ内の多様な意見を交流させて、思考や表現を深めさせている。 4-3-2-1
- ⑮ グループ内での相互評価を通して、学習を改善させている。 4-3-2-1

## 5

## 地域と協働して組織的に取り組む

## ✓ 地域・学校との紡ぎ／共に育つ教師集団

学ぶ力の向上に向けて、地域と協働しながら取り組むことは、業務改善に向けた「チーム学校」の考え方や、次期学習指導要領で謳われている「社会に開かれた教育課程の実現」につながります。

### ココを学びたい！

#### ポイント1 地域・学校の協働的な取組

##### 地域・学校との紡ぎ

- ・ボランティア活動等で地域と共に子どものより良い自己実現、学校実現をめざす

##### 共に育つ教師集団

- ・定期的に教師による自主的な学習会を開催する

#### ポイント2 積極的な生徒会活動

##### 生徒自身による発信活動を支援する

- ・生徒会で発案された「あけとみSNSルール5」などの発信を支援する

### 守山市立明富中学校

学級数	17学級
生徒数	496名



## ○学校の特徴

### 「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

様々な場面でPDCAサイクルを重視しています。授業では共通課題を全員でやり続け、「生徒の力の向上は教師の力量次第」の認識のもと、他教科から学び、教師の自主学習会や全員授業公開等で相互に力を付けています。また、家でも勉強するのが当たり前との感覚を子どもにもたせるために、家庭学習の推進に全教職員で取り組んでいます。

### 「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

学力と特別活動を二本柱として相乗効果を生む取り組みをしています。「特別活動で学校をつくる」意識で全校生徒参加のマナー検定や地域発信等、様々な生徒活動を通じて培ってきた明富スタンダードを土台に、「明富ブランド」の創造を目指しています。

※平成25・26・27年度 学力向上アプローチ事業(県教育委員会指定)

## ポイント1

# 地域・学校の協働的な取組

### ○地域・学校との紡ぎ

・部活動を中心にして地域からの物心両面の支援を受けるなか、年間15回程度の吹奏楽部による地域依頼演奏のほか、夏休みボランティア活動、地域防災訓練への参加など、校外での様々な活動を通じて、地域と共に子どものより良い自己実現、学校実現をめざしています。



### ○共に育つ教師集団

・教員による自主的な学習会を完全下校後等に定期開催し、教員がお互いに切磋琢磨しあえる雰囲気醸成しています。今年度は既に11回行いました。(12/1現在) (テーマは学級づくり、道徳、学習指導、部活動、行事等)



## ポイント2

# 積極的な生徒会活動

### ○積極的な生徒会活動(生徒自身による発信活動)

- ・生徒会「あけとみSNSルール5」提言
- ・生徒会人権劇を守山市の各種研修会や大会等で発表
- ・全国いじめ問題子どもサミットに参加(会場:文部科学省)
- ・生徒会の主導による「自転車通学安全モデル校」指定

生徒会で発案、発信された「あけとみSNSルール5」



- 1 勉強中、食事中、入浴中は携帯・スマホに触らない。
- 2 家族で、使用時間・場所・条件を決め、厳守する。約束を破った場合は、親に返却する。
- 3 悪口、グループ外しは絶対禁止。既読・未読に振り回されない。
- 4 知らない人とのつながりを広げない。
- 5 困った時は、その日のうちに大人に相談する。







## 学ぶ力の向上を図る平成28年度全国学力・学習状況調査結果の分析について

「学ぶ力向上 滋賀プラン」の「授業を改善する」「放課後や家での時間の使い方を考える」の視点に注目し、児童生徒質問紙、学校質問紙の項目をもとに、授業の展開、学習習慣づくりや学習支援のあり方、全校体制での授業改善の取組、子どもたちの多様性を踏まえた指導について、次の(1)から(4)の関連についてその内容の質問紙項目の基にして、県全体の学力状況との関係をグラフに表して分析しました。

### 分析に活用した質問紙項目

#### I アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善

- (☆47) 先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか
- (☆51) 学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか
- (☆52) 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか

#### II 授業と家庭学習をつなぐ単元計画

- (☆22) 家で、学校の宿題をしていますか。
- (☆23) 家で、学校の授業の予習をしていますか。
- (☆24) 家で、学校の授業の復習をしていますか。



#### III 子どもたちの学びをつなぐ小中連携

- (★小80、中79) 近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。
- (★小81、中80) 近隣等の中学校（小学校）と、意見を交換し合うなど、教員同士の交流を行いましたか。
- (★小82、中81) 近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。

#### IV 授業研究会の取組や校内外での教職員の協力体制づくり

- (★小104・中102) 模擬授業や事例研究など、実践的な研究を行っている。
- (★小107・中105) 児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている。
- (★小109・中107) 授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか。

(☆) 生徒質問紙、 (★) 学校質問紙

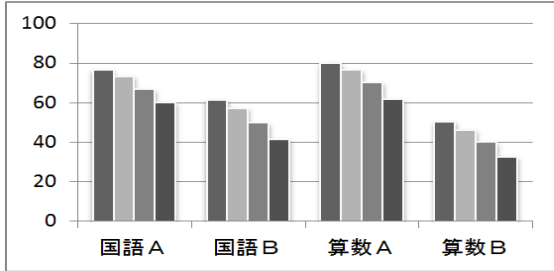
# 学ぶ力の向上を図る分析(※各グラフの縦軸は、各教科の項目ごとの正答率を示しています。)

## I アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善と学力との関連

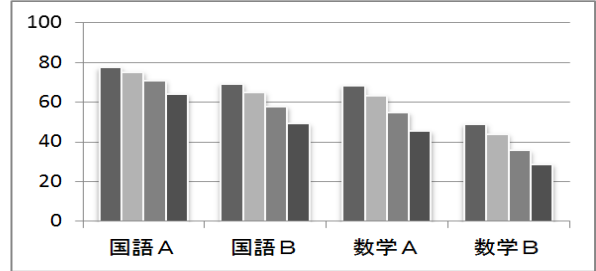
	質問番号	質問事項(児童・生徒質問紙)
小	47	今までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか
中	47	

縦軸は「%」を表す(左から) ■ 当てはまる □ どちらかというあてはまる ▨ どちらかという当てはまらない ■ あてはまらない

【小学校】(滋賀県)



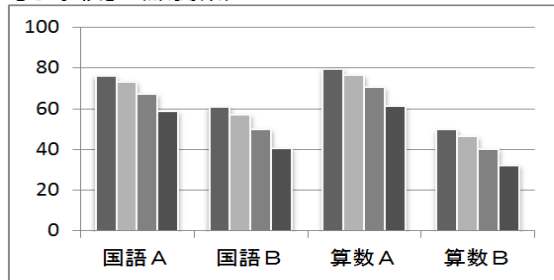
【中学校】(滋賀県)



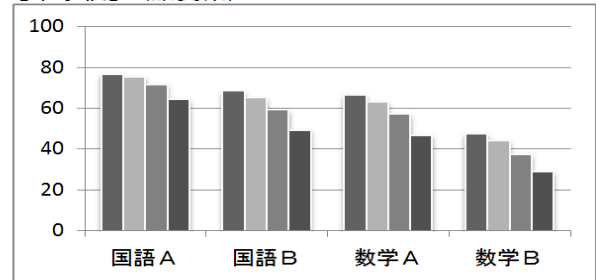
	質問番号	質問事項(児童・生徒質問紙)
小	51	今までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか
中	51	

縦軸は「%」を表す(左から) ■ 当てはまる □ どちらかというあてはまる ▨ どちらかという当てはまらない ■ あてはまらない

【小学校】(滋賀県)



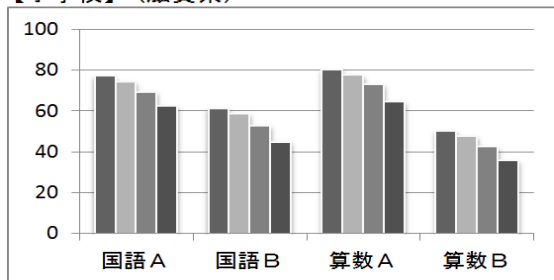
【中学校】(滋賀県)



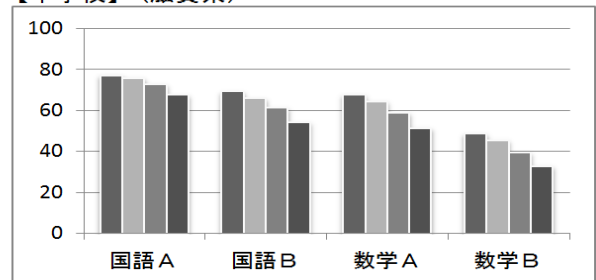
	質問番号	質問事項(児童・生徒質問紙)
小	52	今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか
中	52	

縦軸は「%」を表す(左から) ■ 当てはまる □ どちらかというあてはまる ▨ どちらかという当てはまらない ■ あてはまらない

【小学校】(滋賀県)



【中学校】(滋賀県)



授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題について、自ら考え、自分から取り組んでいたと回答している児童生徒に、平均正答率が高い傾向が見られます。また、子ども同士の対話的な学びについて、肯定的な回答を選択した児童生徒に平均正答率が高い傾向が見られます。

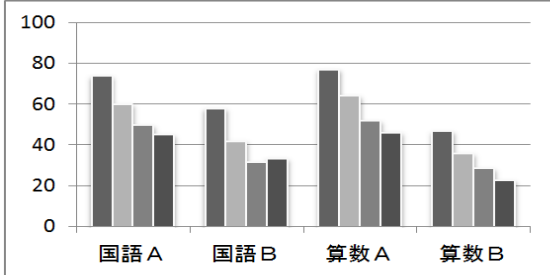
子どもが自分で課題を見付け、興味をもって粘り強く学習に取り組むとともに、子ども同士の対話、自己内対話、さらには書物や資料など先哲の考え方との対話などにより思考を広げたり深めたりしながら学んでいく「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業を改善していくことが大切です。

## II 家庭学習や学習習慣と学力との関連

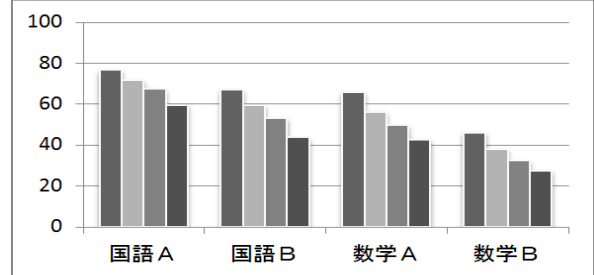
	質問番号	質問事項(児童・生徒質問紙)
小	22	家で、学校の宿題をしていますか
中	22	

縦軸は「%」を表す(左から) ■ している □ どちらかといえばしている ▨ あまりしていない ■ 全くしていない

【小学校】(滋賀県)



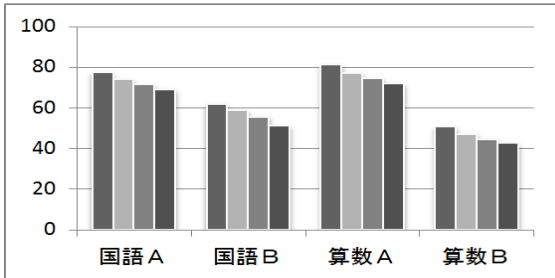
【中学校】(滋賀県)



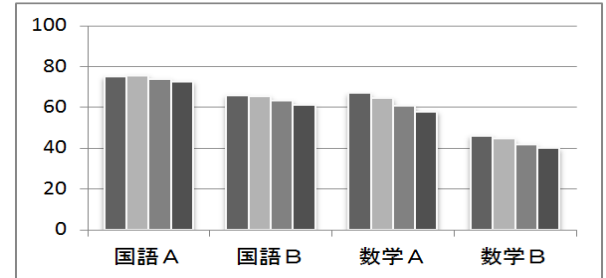
	質問番号	質問事項(児童・生徒質問紙)
小	23	家で、学校の授業の予習をしていますか
中	23	

縦軸は「%」を表す(左から) ■ している □ どちらかといえばしている ▨ あまりしていない ■ 全くしていない

【小学校】(滋賀県)



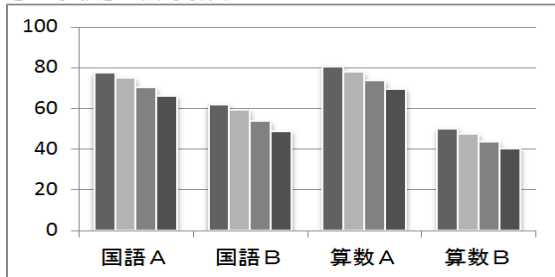
【中学校】(滋賀県)



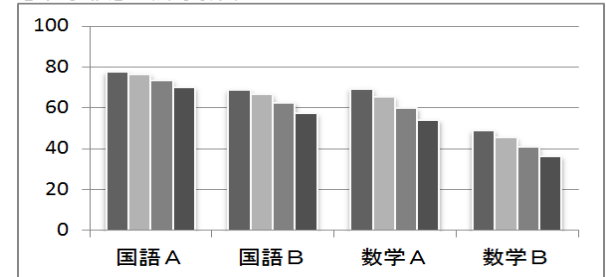
	質問番号	質問事項(児童・生徒質問紙)
小	24	家で、学校の授業の復習をしていますか
中	24	

縦軸は「%」を表す(左から) ■ している □ どちらかといえばしている ▨ あまりしていない ■ 全くしていない

【小学校】(滋賀県)



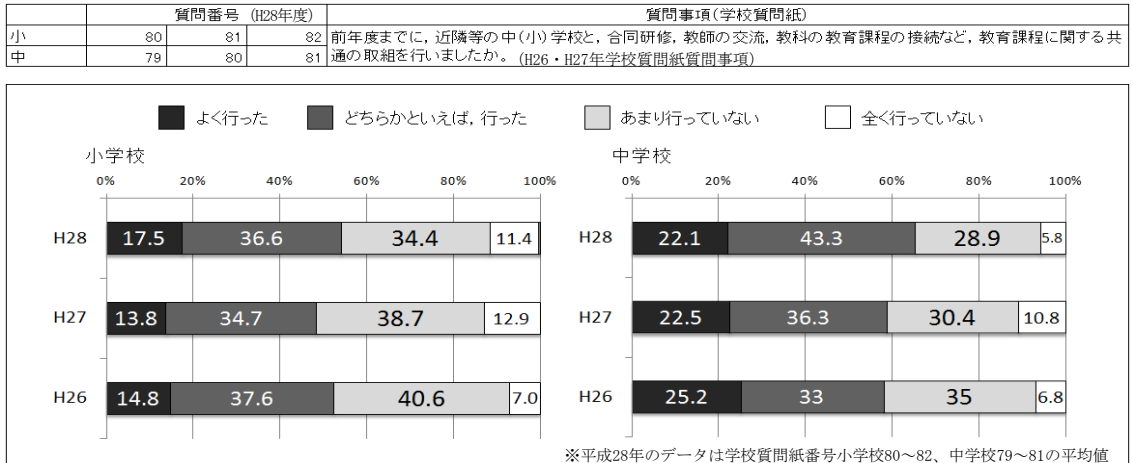
【中学校】(滋賀県)



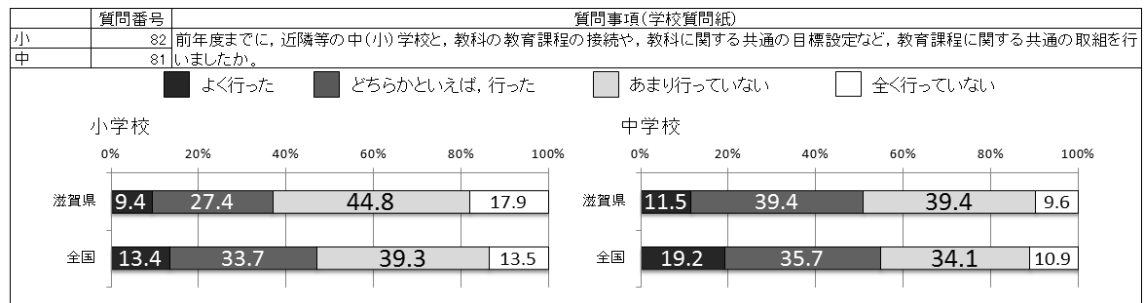
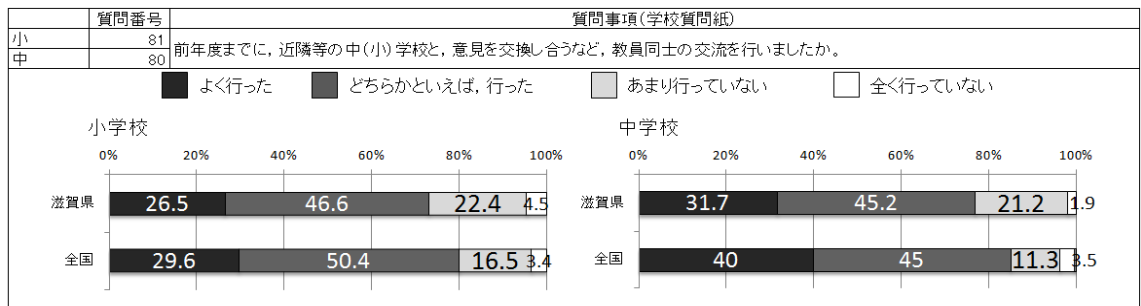
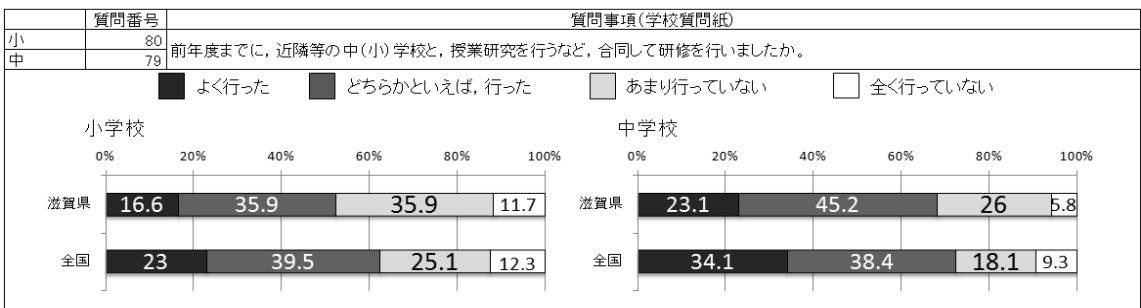
家庭での学習習慣の定着と平均正答率とは一定の関連があることが明らかとなりました。宿題以外に家庭学習で予習や復習することにより、学校で学んだことを振り返って定着させていくことや、学習のなかで興味をもったことを自分で主体的に学んでいく学習習慣づくりに結び付けていくことが大切です。

学校においては、授業で指導する内容と家庭で子どもが学習する内容を関連付けることや、どのように家庭で学習すればよいかの具体例を示すなど、家庭と連携して子どもの家庭学習の習慣を確立していくかを、校内で十分に検討して改善に向けて取り組んでいくことが必要です。

### Ⅲ 子どもたちの学びをつなぐ小中連携の充実



平成26年から平成28年の学校質問紙の小中連携に関する学校質問紙について経年変化を見ると、特に中学校で肯定的な回答が増えています。



本県の小中連携の取組状況について、「よく行った」「どちらかといえば、行った」の肯定的回答が、全国とを比較してみると低く、本県の課題の一つです。

これまで以上に中学校区内で、小・中学校の合同研修会や、教育課程や指導についての共通した取組を実践すること、更には、学力調査等の結果分析、成果と課題の共有をすることにより、教師間がつながり、地域内の学校教育の活性化を図り、中学校への滑らかな接続を図ることで子どもたちに確かな学力を身に付けさせたいと考えています。



#### IV 授業研究会の取組や校外での教職員の協力体制づくり

4月は平成28年度全国学力・学習状況調査の結果より、11月は県独自に調査した学力向上についてのアンケート結果より抽出しています。

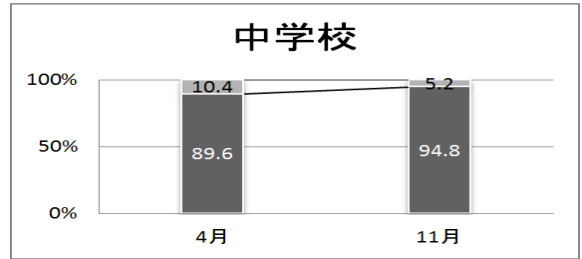
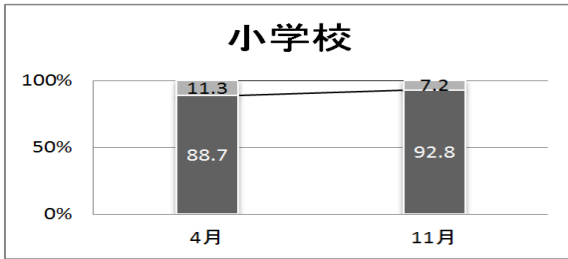
	質問番号	質問事項(学校質問紙)
小	104	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている
中	102	

4月調査(平成28年度全国学力・学習状況調査結果より)

11月調査(県独自調査より)

■ よく行った、どちらかといえば行った  
 □ あまり行っていない、全く行っていない

■ 行った、行う予定である  
 □ 行っていない、行う予定はない



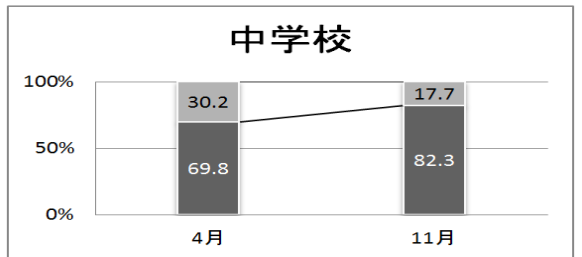
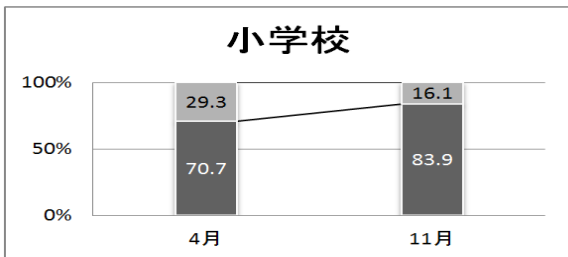
	質問番号	質問事項(学校質問紙)
小	107	児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている
中	105	

4月調査(平成28年度全国学力・学習状況調査結果より)

11月調査(県独自調査より)

■ よく行った、どちらかといえば行った  
 □ あまり行っていない、全く行っていない

■ 行った、行う予定である  
 □ 行っていない、行う予定はない



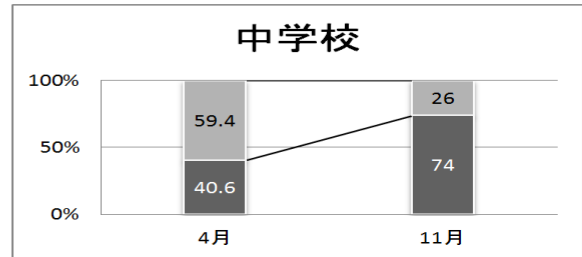
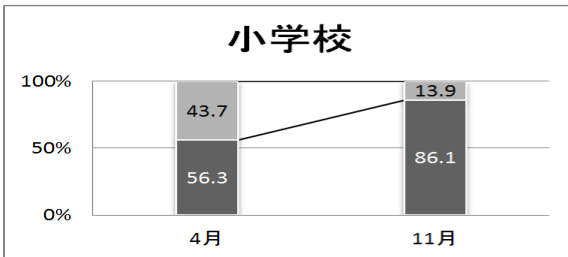
	質問番号	質問事項(学校質問紙)
小	109	授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか
中	107	

4月調査(平成28年度全国学力・学習状況調査結果より)

11月調査(県独自調査より)

■ 年間11回以上行った  
 □ 年間10回以下である

■ 年間11回以上行った、行う予定である  
 □ 年間11回以上行う予定はない



どの項目においても授業研究や校内研修等を各学校が積極的に取り組もうとしていることがわかります。日々の学習指導と適切な学習評価の計画を作成するため、授業研究に積極的に取り組み、授業での子どもの変容や状況をもとめる力量を高めることや、研究会等で学んだ内容を自らの教育活動に生かしていくことが大切です。

若手教員が増えつつあるなかで、全校体制で協力して取り組まねばなりません。授業の改善を図っていくために、職員間の同僚性を高めていきながら、改善のねらいを焦点化した校内研究や研修を推進していくことが必要です。